

## マレーシア ペナン日本人学校

前ペナン日本人学校

現釧路市立美原小学校 小川 一法

### マレーシアの概要

#### マレーシアの主な社会・政治・経済指標

面積 330,434km<sup>2</sup> (半島マレーシア 128,514km<sup>2</sup> 東マレーシア 201,920km<sup>2</sup>)  
 位置 北緯 1 度 ~ 7 度 25 分 東経 100 度 08 ~ 119 度 20 分  
 気候 熱帯雨林気候

人口 約 2717 万人 (人口密度 79 人 / km<sup>2</sup>)  
 民族構成 マレー系 中国系 インド系 その他 非マレーシア人  
 61.3 % 23.1 % 6.9 % 1.1 % 6.7 %

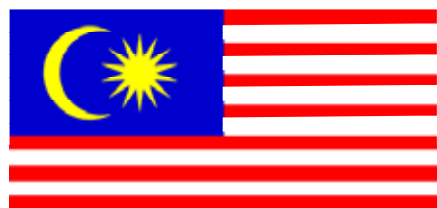
言語 マレー語 (公用語)、英語、中国語、タミール語  
 宗教 イスラム教 仏教 ヒンズー教 キリスト教 その他  
 60.4 % 19.2 % 6.3 % 9.1 % 4.9 %

首都 クアラ・ Lumpur (通称 KL)  
 通貨 RM (リングgit・マレーシア) 1 RM = 約 34 円 (2007 年 10 月)

政体 立憲君主制 (議会制民主主義)  
 元首 ミザン・ザイナル・アビディン 第 13 代国王 (2006 年 12 月就任)  
 国王は 9 州のスルタンの互選による (任期 5 年)  
 首相 Y A B ダト スリ アブドゥラ ビン ハジ アマッド バダウイ

国内総生産 542,766 million R M (経済成長率 6 . 0 %)  
 対日貿易 輸出：機械、鉱物性燃料、木材 (日本は第 3 位の輸出相手国)  
 輸入：電子部品、一般機械、鉄鋼 (日本は第 1 位の輸入相手国)

#### 国旗



マレーシアの国旗は、一見すると、アメリカ合衆国の国旗と似ている。

紅白の線は 14 本あり、独立当時の 13 州とクアラルンプールを表している。左上の三日月と光は、イスラム教のシンボルである。

### 1 . 歴史

マレ - 半島の歴史上最も重要な位置を占めるのは、1403年成立の「マラッカ王国」であろう。東の中国、西のインド (更にペルシャ、アラブ、ヨ - ロッパ) の交易の接点と

して栄華を極めた。この地はマラッカ建国以前から、インド、中国、アラブ、ペルシャ等との接触があり、様々な文化が往来し、特にアラブ商人との交易は、イスラム教の導入に大きな役割を果たしたとされる。

1511年、中継貿易による利権を狙ったポルトガルが「マラッカ王国」を陥落させマラッカ港を占領、マラッカ王朝は、マレ - 半島南端のジョホールに逃げ、「ジョホール王国」を建設した。1600年、英国東インド会社が設立され、西欧諸国によるアジアの植民地化が進んで行く。

1641年、衰退するポルトガルに代わりオランダがマラッカを手中に治めた。更に、イギリスがマレ - 半島に進出。1786年には東インド会社がペナン島を植民地とし、1819年、ラッフルズはジョホールのサルタン（国王）からシンガポールを獲得、1824年の英蘭協定により、マラッカ海峡の東側が英国領、西側がオランダ領とされ、今日のマレ - シアとインドネシアの領土の基礎となった。

19世紀になると錫鉱山の開発に伴って、又、20世紀にはゴム等のプランテーションの労働者として、中国（福建・広東）、インド（タミール地方）から大量の労働者や移民がマレー半島に投入され、人種、産業別の集団分化が進行した。1896年にはマレー連合州が結成され、イギリスの支配はマレー半島全土に及ぶようになる。これは1941年、太平洋戦争勃発後の日本軍によるマレー半島占領時期を除いて、1957年8月31日に「マラヤ連邦」として完全独立するまで続く。1963年シンガポールと東マレーシアのサバ、サラワクを加えマレーシア連邦となるが、1965年、シンガポールが人種、宗教上の理由で分離独立し、現在のマレーシアの形となった。1981年マハティールが首相に就任し「ブミプトラ政策」（マレ - 人優先策）を継承、「ルックイースト」政策や、「2020年先進国入り」等を進めた。

2003年にマハティール首相が引退し、アブドゥラ首相となり、前政権の政策を引き継ぎ現在に至っている。

2007年にはマレーシア独立50周年を迎え、日馬友好交流30年を迎えた。



## 2．文化・宗教

国教は「イスラム教」であり、マレ - 人の多くはムスリム（イスラム教徒）であるが、憲法で信教の自由が認められており、中国の仏教・道教、インドのヒンドゥ教、キリスト教等の信者も多い。その為、国内には多くのモスクや中国寺院、ヒンドゥ寺院、キリスト教会があり、各宗教の行事も数多く行われている。

文化もそれぞれ民族独自の形態を持っているが、長い歴史の中では、中国とマレ - の文化が融合した「ババ・ニョニャ文化」も生まれ、それぞれの民族が自分の文化・宗教を守りつつも、互いに他の民族のそれを認め合うことで共存が成り立っている。

## 3．経済

経済の実権は「華人」と呼ばれる中国系が握っており、人種間の貧富の格差が大きい。中国系は都市部に住み商店や事業に従事する者が多く、インド系はプランテーション労働者や都市部でも清掃・工事等の労働者が多い。地方に住み、昔ながらの農漁業を営む者が多いマレー系国民の生活水準は低かった為、ラーマン政権時代から「ブミプトラ政策」（マレー人優先策）が取られ、現在に至っている。

#### 4. 言語

公用語はマレー語（インドネシア語とほぼ同じ）だが，英語が各民族の間で広く使われ、ほとんどの場合，英語で事足りる。日常生活の中では，他にも中国系は福建語・広東語・マンダリン（北京語），インド系は南部インドのタミール語が使われている。

「ブミプトラ政策」にある「マレー語の国語としての地位の向上」の為，官公庁，役所関係の書類は全てマレー語が使われている。

#### 5. 気候・風土

昼と夜の時間差は小さく，太陽高度は常に高くなる。年間気温は最高32℃～最低22℃で，年間平均気温は26℃～27℃と北海道と比べかなり高温である。激しい雷を伴うスコールがある。四季の変化はほとんどない。

#### 「東洋の真珠」ペナン島

##### ペナン (PULAU PINANG「プラウ ピナン」) の概要

面積	2 8 5 km <sup>2</sup> (半島側プラウ 1,046 km <sup>2</sup> )
人口	約 147 万人 (人口密度 79 人 / km <sup>2</sup> )
民族構成	マレー系 (32%)，中国系 (59%)，インド系 (7%)
言語	マレー語 (公用語)、英語、中国語 (福建、広東)、タミール語
州旗	



ペナン州の州旗は、他の州旗のデザインとは異なり、縦3列の配置となっている。

中央には、ペナン島の名前の由来でもある「ピンロウ樹」がデザインされている。

左側（青）は海を、右側（黄色）は州の繁栄を表している。

#### 1. ペナン島・ジョージタウンの様子

ペナン島は，マレー半島の西側に浮かぶ南北約24km，東西約15kmの島である。「ペナン」とは、マレー語でヤシ科の植物「檳榔樹（ピンロウジュ）」を意味するそうだ。

16世紀に入ってポルトガル船が寄港するようになり、檳榔樹が茂るこの地を見て「Pulau Pinang（檳榔樹の島）」と呼ばれるようになった。

1786年，イギリス東インド会社のフランシス・ライトが東西貿易の寄港地としてケダ州のサルタン（王様）からこの島を譲り受け，「プリンス・オブ・ウェールズ島」と名付けた。こうしてペナン島



ピンロウ樹

はマレー半島におけるイギリス最初の入植地として、以後約170年間にわたって支配される。イギリスは入植者には土地をあたえる政策をとったので，中国やインドからの移民がペナン目指して数多くやってきた。そのため，町なかにはイギリス統治時代のコロニアル様式の建物が今も残るほか，中国やインドなどの影響を受けた建築物も多く存在する。

島の人口は約70万人で、中国系、マレー系、インド系の各民族がそれぞれの文化を尊重しあいながら暮らす多民族社会を形成している。他の州に比べ、ペナンは中国系の比率が高いのが特徴である。

ペナン州の州都ジョージタウンは、ときのイギリス国王ジョージ 世にちなんで名付けられた。咲き乱れる花と緑の中に、英国統治時代からのコロニアル様式の家々が建ち並び、たわわに実をつけた椰子やパパイヤの木々が南国の情緒を誘う美しい街である。最近では、開発の波が押し寄せ、あちこちに大きなマンションやビルが建ち始めている。



名物「トライショー」



「時計台」



ランドマーク「コムター」

## 2. ペナンブリッジとフェリー

ペナン島から対岸の半島側に渡るには2通りの方法がある。1つは全長13.5kmのペナンブリッジ、もう1つはフェリーである。1985年にペナンブリッジが開通するまではフェリーが主要な交通手段であった。最近では利用者が減少傾向にあるが、それでもオートバイ利用者が多いペナン市民の需要は高い。現在も8隻のフェリーが活躍中である。

私も何度か利用してみたが、片道20分ほどのちょっとした船旅が味わえる。どちらもペナン島から出る場合には無料。ペナン島に向かってくる場合には有料になる。



フェリー



ペナンブリッジ



フェリーからみたペナン

## ペナン日本人学校の教育

### 1. ペナン日本人学校の概要

- (1) 名称 ペナン日本人学校 (PENANG JAPANESE SCHOOL)
- (2) 所在地 140, SUNGEI PINANG ROAD, 10150 PENANG MALAYSIA
- (3) 設置者 ペナン日本人会 (THE PENANG JAPANESE ASSOCIATION)
- (4) 設立年月日 昭和49年10月5日



- (5) 設立主体 学校運営委員会～ペナン日本人会から委嘱された委員により構成し、学校の管理・運営にあたる
- (6) ステータス 日本国文部科学省・外務省の認可を得て、マレーシア国連邦教育法に従い、ペナン州政府教育局の認可により設立された私立学校
- (7) 教職員構成  
 文部科学省派遣教員～15名  
 現地採用教職員～英会話講師4名・水泳講師1名・事務職員3名  
 警備員1名・ドライバー1名・清掃1名・庭師1名
- (8) 児童生徒数(平成18年5月のデータ)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	小計	中1	中2	中3	小計	合計
男	11	6	9	6	6	11	49	8	6	5	19	68
女	8	8	8	10	9	12	55	6	7	4	17	72
計	19	14	17	16	15	23	104	14	13	9	36	140

## 2. 学校経営

### (1) 学校教育目標


**「PJSかがやきプラン」**

**「か」～考える子**  
主体的に考え、学ぶ力を身につける。

**「が」～がんばる子**  
力いっぱい活動し、最後までがんばりぬく。

**「や」～やさしい子**  
思いやりがあり、助け合う。

**「き」～協力する子**  
郷土を愛し、たがいの文化をわかり合う。



### (2) めざす学校像

楽しく喜びのある子ども主役の学校

子ども一人ひとりのよさや可能性が認められ伸ばされる学校

子どもと教師、子ども相互の心が通い合う温もりのある学校

子どもの心に安心感と充実感を与える環境の整備された学校

教師にとって働きがいのある学校

子どもを語り、子どもの成長を喜び合える学校

報告・連絡・相談・協議が徹底されるコミュニケーション機能の高い学校

教師の創意工夫が生かされる経営参加意欲と協働意識の高い学校

父母や地域の人々から信頼される学校

子どもの姿を通して信頼される確かな実践に裏付けられた学校

父母や地域の声を傾聴し誠意ある対応のできる学校

地域行事への積極的参加援助を通して連帯感を高める学校

### 3. 特色ある教育活動

#### (1) 英会話

ペナン日本人学校では、在外教育施設の特徴の一つとして、英会話の授業を週2回実施している。4名の現地採用英会話講師が指導にあたり、4つの少人数クラスに分けて指導を行っている。保護者の間でも「海外在住＝英語習得」のイメージが強く、英会話の授業に対する期待は非常に高いものがある。

そこで、平成18年度からは、子どもたちがより英語にふれる機会を増やすこと、いづれ始まることが予想される「小学校英語」を見越して、「朝の英語活動」を取り入れた。各学級担任が朝の10分間を活用して、歌やゲーム、簡単な会話を実施する。担任の先生方の苦労は多いが、今後に期待のかかる取り組みである。

#### (2) 水泳授業

ペナンは常夏の島である。学校には25Mのプールが設置されており、週1回の水泳授業が実施されている。水泳指導の講師と体育担当教師が指導にあっている。3学期には(中学部は2学期)、1年間の成果を発揮する場として「水泳記録会」が行われている。

#### (3) 運動会

毎年6月に運動会(小中合同)を実施している。全校を4つの組(赤、青、黄、緑)に分け、小学部1年生から中学部3年生までが優勝目指して団結する。小規模な学校ならではの、ほのぼのした運動会である。力の入るのが、何ととっても応援合戦。各組の団長を中心に、チームカラーをイメージした応援内容を披露し、応援合戦部門の優勝を目指す。中心になる中学部は大変で、チーム名、選曲、ダンスの振り付け、隊形などを自分たちで考え、それを小学部(とくに低学年への指導が大変)に教えなければならない。とても苦労が多いので、優勝が決まったチームの喜びと盛り上がりはすごいものがある。

#### (4) PESTA BUNGA RAYA (ペスタ・ブंगा・ラヤ)

毎年9月に日頃の学習活動の成果を発表する場として、PESTA BUNGA RAYA (ペスタ・ブंगा・ラヤ)が実施される。子どもたちは、各学年事(中学部は全体で企画・発表)に企画・練習に取り組み、歌や劇、ダンスなどを発表する。

毎年、趣向の凝らされた発表が多く、小学部6年生は修学旅行で訪れたサラワク州のことを劇にしたり、「総合的な学習の時間」で取り組んだ環境問題を劇風にアレンジした学年もあった。中学部は、中国系民族のライオンダンスやインド系ダンス、マレー語の歌の合唱など、毎年感動するような発表がいくつもある。

運動会と並ぶ2大行事としてペナン日本人学校では欠かせない行事である。

#### (5) 現地校との交流

在外教育施設の特徴ある活動として「異文化との交流」は欠かせない。ペナン日本人学校でも各学年部ごとに交流を行っている。

##### <平成18年度の例>

低学年部～セントクリストファー校(イギリス系)との交流

中学年部～ダラット校(アメリカ系)との交流

高学年部～アップランズ校(イギリス系)との交流

中学部～鍾霊中学(中国系)

Sekolah Menengah Sains Tun Syed Sheh Shahabudin(マレー系)との交流

## (6) 民族音楽鑑賞会

マレーシアにいる三大民族（マレー系、中国系、インド系）の音楽を1年ずつ交代で鑑賞している。演奏だけでなく、それぞれの音楽の歴史的背景の説明、楽器の紹介などもある。また、楽器に触れさせてもらったり、ダンスの講習会なども行われ、マレーシアの音楽に浸る一時となる。



【中国音楽】



【マレー音楽】



【インド音楽】

## (7) 修学旅行

小学部6年生（2泊3日）と中学部2年生（3泊4日）で実施している。行き先は東マレーシアのサラワク州である。小学部はサラワク州の州都であるクチン市内を中心にカルチャーヴィレッジ見学、オラン・ウータン保護センター見学、グヌン・ガディン国立公園でのジャングルトレッキング（運が良ければ、世界最大の花「ラフレシア」に出会える）などを行う。中学部はパコ国立公園での自然体験宿泊をはじめ、イバン族のロングハウス訪問、カンボン（村）ハウス訪問でのマレーダンス体験など、体験的な活動を取り入れた内容となっている。

## (8) 宿泊体験学習

小学部5年生（2泊3日）で実施。ペナン島を北上し、タイ国に近い「ランカウイ島」へ出かけている。マレー料理の調理体験やネイチャーツアー、シュノーケリング体験など、自然体験を取り入れた内容となっている。



## (9) 日本人墓地清掃

ペナンには日本人墓地が存在する。年に数回、勤労的奉仕行事として、日本人墓地清掃を実施している。

## 4. 派遣教員としての取り組み

### (1) 社会科指導

ペナン日本人学校では、小学部も一部教科担任制をとっている。小中併設の利点を生かして、派遣教員も小学部所属であっても中学部の授業を担当することは珍しくない。（その逆に中学部の教員が小学部1年生を教える場合もある。）

在外教育施設では企業の駐在員の家庭が多い。数年後には日本へ帰国するパターンが多く、保護者の関心事は何といても帰国後の子どもの学力保障である。当然、日本人学校と派遣教員に寄せられる期待は大きい。私も4年間、小学部（4年生と6年生が多かった）と中学部の社会科を担当したが、とくに中学部の授業は6年ぶりということもあり、教材研究にはかなりの時間を費やした。

また、ペナンは比較的治安が良いため、校外学習にも数多く出かけることができた。学校にも1台スクールバス（ゴールデン・プラウ号）があり、出かけやすいという環境にもあった。私の行った校外学習の一例を紹介したい。

浄水場（小学部 4 年）  
ごみ処理場（小学部 4 年）  
ペナン州立博物館（小学部 4 年）  
フェリーターミナル（小学部 4 年）  
ペナブリッジ事務所（小学部 4 年）  
パティック工場（小学部 4 年）  
戦争博物館（小学部 6 年・中学部 2 年）



パティック工場見学

## （２）研究主任として

在任期間 4 年のうち、3 年間研究主任を担当した。在外教育施設は、教員の出入りも激しい。2～4 年のサイクルで人が入れ替わるので、1 つのテーマでじっくりと子どもたちの変容を見るところは、なかなかできなかった。

そこで、平成 16 年度から 3 ヶ年計画で、1 つの研究主題のもと、じっくりと計画を立てて、研究活動に取り組むこととなった。めざす子ども像を設定し、研究理論を整備しながら、日常的な取り組みや仮説検証授業に取り組んだ。在外教育施設による情報不足、小中併設による連携の難しさなど、課題も多かったが、3 年間の研究で一定の成果をあげることができた。

拙い研究ではあったが、私にとっては、全国から集まったメンバーと子どもについて、授業について、そして研究について熱く語り合うことができたことは、かけがえのない経験であり、財産となった。

### 研究主題

「自分の思いを豊かに表現する子どもの育成」

～ 双方向のコミュニケーション能力を育成する教育活動の工夫～

### めざす子ども像

- ・自分の意思を、工夫しながら伝えることのできる子（発信）
- ・自分の考えを持ち、相手の思いをしっかりと受けとめることのできる子（受信）
- ・相手の立場を尊重しながら自分の意思を伝え、互いの考えを高め合うことのできる子（相互理解）

## （３）副読本の作成

平成 15・16 年度に小学部 3・4 年生用社会科副読本「わたしたちのペナン」、平成 17・18 年度には、ハンドブック「PULAU MUTIARA」（プラウ・ムティアラ）を全面改訂した。どちらも編集委員会を校内に組織して作成作業に取り組んだが、私も社会科担当、研究主任という立場から中心的役割を任された。

編集委員会の運営、取材、原稿執筆、印刷業者との折衝、原稿の編集など苦労することも多かったが、それだけに製本されて手元に届いたときの感激は忘れられない。

また、「PULAU MUTIARA」（プラウ・ムティアラ）は原稿執筆を派遣教員全員で分担したが、さすがは全国から集まった教師集団である。すばらしい内容に仕上がったと自負している。



## 社会科副読本「わたしたちのペナン」

わたしたちのまち みんなのまち

- ・学校のまわり
- ・ジョージタウン
- ・ペナンたんけん

人びとのしごととわたしたちの暮らし

- ・スーパーマーケット
- ・のう家のしごと

くらしをまもる

- ・火事と消ぼう
- ・じことけいさつしょ

住みよいくらしをささえる

- ・くらしと水
- ・ごみはどこへ

ペナンにつたわるねがい

- ・ペナンの年中行事
- ・ペナンにつたわるねがい
- ・歴史マップづくり

わたしたちのペナン州

- ・古くからの伝統がのこっている地域
- ・ホテルなどがたち並ぶ観光地域
- ・日本の会社も進出している地域
- ・農業が盛んな田園地域
- ・養しよくななどの漁業が盛んな海岸地域

### < 資料編 >

ペナンのうつりかわり

- ・ペナンの歴史
- ・フェリーボートの歴史
- ・ペナンブリッジの歴史

わたしたちのくらしと物をつくる仕事

- ・海さん物食品加工工場
- ・おりものを作る工場

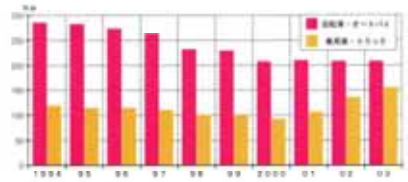
わたしたちの住んでいるマレーシア

- ・マレーシアの歴史
- ・マレーシアの位置と地形
- ・マレーシアの交通
- ・マレーシアと世界の国々とのかわり

白地図のページ



③ 過去10年間のフェリーがはこんだ乗客



④ 過去10年間のフェリーがはこんだ乗客



# ハンドブック「PULAU MUTIARA」

マレーシアってどんな国？

- ・マレーシアの歴史を知ろう！
- ・マレーシアにはどんな宗教があるのかな？
- ・マレーシアの学校を紹介します

マレーシアの国旗・州旗

ペナン街歩き

- ・のぞいてみよう ペナンの街並み
- ・行ってみよう ペナンの名所

今に続くマレーシア文化

- ・きれいなパティック
- ・トライショーにトライしよう！！
- ・マレーシアの行事

衣・食・住からマレーシアを見てみよう

- ・民族衣装を着てみませんか？
- ・おいしいマレーシアフード
- ・ペナンの人々のお住まい拝見！！

われら自然探検隊

- ・見つけた！トロピカルフルーツ
- ・食べたことあるかな？ペナンの野菜
- ・きれいだね ペナンの花
- ・知ってる？ペナンの生き物

みんなで遊んでみよう

- ・Congkak チョンカ
- ・Sepak Takraw セパタクロー
- ・Oh Jus オージュス

<コラム> 影のできない日

マレーシアの民話を読んでみよう

- ・レダン山の王女
  - ・マレー鹿のカンチルのお話
- マレー語で話してみよう！

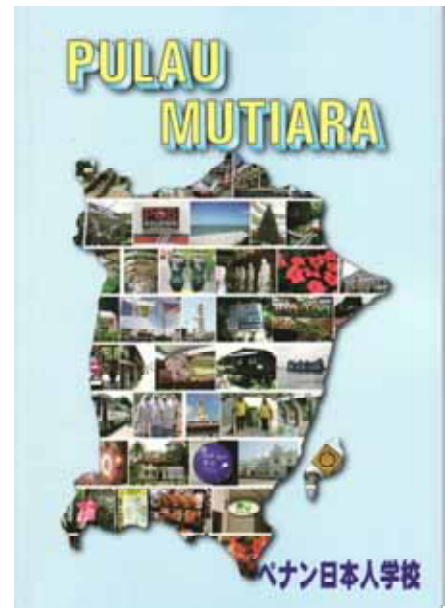
【BAHASA MELAYU】

聴いて歌ってマレーシア

- ・マレーの楽器
- ・中国の楽器
- ・インドの楽器

ペナン日本人学校校歌

Sejahtera Malaysia



## 2. マレーシアの国旗・州旗

わたしたちの暮らしているマレーシアには、13の州と3つの連邦直轄州があります。

### (1) マレーシアの国旗



星条旗の横は、南緯に北緯の14度線が通っています。星条旗と南緯北緯の線が重なっています。星条旗は13の州と3つの連邦直轄州を表しています。星条旗の横は、南緯に北緯の14度線が通っています。

### (2) ペナンの州旗



ペナン州の旗は、ペナンの州旗です。旗の中央には、ペナンの州旗のシンボルがあります。旗の色は、ペナンの州旗の色です。

### (3) その他の州旗

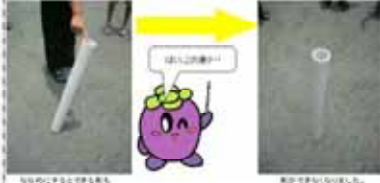


### <コラム> 影のできない日

ペナンは赤道を少し上（北緯5° 23' 23"）に位置しています。そのため、1年に2回（4月と9月）、太陽が頭の真上を通り、影が影のできない日があります。



2006年は、4月4日の13時22分と9月9日の13時17分に、太陽が頭上に来ました。毎年だいたい同じ日に、影のできない日があります。



## ペナンでの4年間（生活雑感）

### 1．食はペナンにあり

マレーシアは多民族国家である。それゆえ、食文化も中国系料理、マレー料理、インド料理と多彩な味わいがある。それ以外にも西洋料理（フレンチ、イタリアン）や日本料理も食することが出来る。国によっては、赴任中、食べるものが合わなくて苦労したという話を聞いたことがあるが、私に関しては4年間食べることには苦労しなかった。

また、ペナンは中国系の人びとが多いせいもあってか、屋台がとても多く、安くておいしい料理がすぐ食べられるのもうれしかった。ガイドブックなどにはペナンを称して「B級グルメ王国」などというフレーズが紹介されているが、異存はない。



「ホッケンミー」



「肉骨茶（バクテー）」



「ナシ レマ」

### 2．年中行事（祝祭日）

マレーシアの国教はイスラム教である。しかし、憲法で信教の自由が保障されているためにマレーシアでは、いろいろな宗教が存在する。宗教の違いが紛争につながることも多い現在の世界情勢の中にあって、互いの宗教を認め合って生活している。1年を通じて、宗教にかかわる行事が数多くあり、各宗教ごとの特色が色濃く出ていてとても興味深かった。

#### <ペナンの年中行事（祝祭日）> ~平成18年度~

4月11日	ムハンマド・バースデー	(イ)
5月1日	ワーカーズ・デー	
5月12日	ウエサク・デー	(仏)
6月3日	キングス・バースデー	
7月8日	ガバナーズ・バースデー	
8月31日	ナショナル・デー（独立記念日）	
10月10日	ファースト コーランデー	(イ)
10月21日	ディパバリ	(ヒ)
10月24日	ハリ・ラヤ・プアサ（～25日）	(イ)
12月25日	クリスマス	(キ)
12月31日	ハリ・ラヤ・ハジ	(イ)
1月1日	ニュー・イヤーズ・デー	
1月20日	アウル・ムハラム	(イ)
2月1日	タイプー・サム	(ヒ)
2月17日	チャイニーズ・ニュー・イヤー（～18日）	



奇祭「タイプーサム」



ライオンダンス

(イ)はイスラム教、(仏)は仏教、(ヒ)はヒンドゥ教、(キ)はキリスト教  
宗教にかかわる祝祭日は、イスラム暦などのために、年によって月日が変わる。



### 3. 日本人会行事

#### (1) ソフトボール大会

年に3回、日本人会主催の「ソフトボール大会」が行われる。各日系企業ごとのチーム、野球（ソフトボール）好きのおじさんたちの集まったチーム、子どもたちが主体のチームと参加チームは様々である。ペナン日本人学校も総領事館と合同でチームを作り、参加している。選手のみならず、配偶者や家族も応援参加し、「日本人学校の応援が一番賑やか」と言われるほど、盛り上がる(?)。

結果の如何はともかく、当日は大人も子どもも楽しめる1日である。

#### (2) 日馬親善盆踊り大会

日馬親善の行事として、年に1度、盛大に行われている。盆踊り会場は、各ホテルや日本食レストランなどの露店が出て、たくさんの人出で賑わう。日本人会も「金魚すくい」や「ヨーヨーつり」などの露店を提供しているが、派遣教員は例年「ヨーヨーづくり」をお手伝いする。日本人学校の子もたちも和太鼓の演奏で花を添える。

ローカルの人たちに大人気の行事で、盆踊りを行う中央の特設ステージのまわりには、何重もの輪ができて踊りを楽しむ。また、日本女性が着る「浴衣」も大人気で、あちこちで記念撮影を頼まれるようである。我が家の娘もマレーシアに囲まれている写真がたくさんある。

#### (3) もちつき大会

毎年12月に日本人会館にて行われる行事である。海外に暮らす子どもたちにとって、日本の伝統的な行事を体験することは素晴らしいことである。お父さん達がついたもちをお母さん方がいろいろな味付けを施してくれる。12月とはいえ気温30度近いペナンでつきたてのお餅に舌鼓を打つという経験は貴重である。

派遣教員は例年餅米を蒸すための「かまど」を担当する。火おこしから火の維持、餅米の蒸らし具合の調節まで気の抜けない役どころである。みんな汗だくになって、奮闘する。それだけにお母さん方が差し入れてくれる「お餅や漬け物」は幸せな気分になる。

#### (4) さくらチャリティー

日本人会の婦人部「さくら会」が主催するチャリティーバザーである。配偶者や女性教員も参加し、ホテルの1フロアを使って盛大に行われる。

私の妻も4年目には、ブースの代表を務めていた。関係各位との折衝や準備などには人に言えない苦労もあったようだが、派遣教員の配偶者以外との人間関係の輪も広がり、やって良かったと言っていた。ちなみに当日の男性派遣教員の役割は「子守り」である。

### 4. 愛車「ルサ」

マレーシアでは、国産車を製造している。私が4年間お世話になったのは、日本のダイハツ系プロドゥア社の「RUSA(ルサ)」である。日本人からすると、今どきの車という感想を持つが、本当によく走ってくれた。

北はマハティール前首相の地元ケダ州の「アロースター」から南はシンガポールとの国境の町「ジョホール・バル」まで、まさにマレー半島を縦断した。

アクセルのワイヤーが切れて、交差点でストップする





という青ざめるトラブルも何度かあったが、さすがに4年間も乗ると愛着がわき、帰国時に手放すときには少し寂しい気分になったものである。

ちなみにマレーシアの交通事情はあまり良くない。オートバイが横入りや逆走、信号無視などお構いなしである。私の妻はあまりのオートバイの無謀さに恐怖で4年間運転を控えたほどである。赤信号で停車していてもちょっとした隙間があれば割り込んでくるので、サイドミラーにはよく接触された。窓を開けて、「ぶつけたな」と言うと、返ってくる返事は「Never mind (気にするな、大丈夫)」である。

2度ほど警察の白バイも接触していったが、止まることもなく手だけ挙げて走り去っていった。

## 5. ソフトボール交流

平成17年度にソフトボールチームの強豪「日立&ルネサス高崎女子ソフトボール部」が本校を訪問してくれた。ソフトボールの普及とチーム合宿・リフレッシュを兼ねての来マであったが、日立ルネサス社長のはからいで日本人学校で交流を行うことになった。

日本を代表するチームでオリンピック出場選手も多数抱える強豪チームであり、総監督の宇津木妙子氏は全日本チームの監督として、オリンピックで銀メダル(シドニー)銅メダル(アテネ)へと導いた人物である。

宇津木総監督の講演やチームの練習見学、宇津木監督のノックを受けるなど、夢のような時間を子どもたちは過ごした。日本人学校の子どもたちも歓迎の気持ちを込めて、合唱のプレゼントをしたが、選手のなかには、感動のあまり涙を流す人もいて、良い交流会となった。

平成18年度には、再び本校を訪問してくれることになり、今度は子どもたちと接する時間を可能な限りとりたいという選手達の意向で、教室で子どもたちとお弁当を食べたり、レク的な内容の交流も取り入れてくれた。宇津木妙子総監督と宇津木麗華監督は所用のため訪問は実現できなかった(ビデオレターでメッセージを送ってくれた)が、総監督が一番悔しがっていたそうである。ちなみに平成19年度も訪問の方向で話が進められているそうである。



## 6. 招かれざる訪問者(?)

ペナン日本人学校には、いろいろな来訪者がある。前述のソフトボールチームのように何度でも訪問していただきたい方々に対して、できればご遠慮願いたい訪問者もいる。以下に招かれざる訪問者を紹介したい。



オオトカゲ



コブラ



ニシキヘビ

## おわりに

平成 15 年度から平成 18 年度までの実に 4 年間でペナンで過ごすことができた。赴任する前は何もかもが不安に感じ、あれこれ心配ばかりしていたが、赴任してそれらは全て杞憂に終わった。多文化が見事に調和し、すばらしい雰囲気醸し出すペナンが、そしてマレーシアという国が大好きになった。

私が無事、4 年間で過ごすことができたのも人に恵まれたという点が大きい。同期派遣の仲間たち、学校長をはじめとする日本全国から集まった派遣教員、ローカルスタッフ、ペナン日本人学校の子どもたちと保護者の方々、日本人会の方々、そして知り合ったマレーシアンたち。いろいろな人に支えられて何とかやっていくことができた。いつか恩返しができる日が来たら良いと願っている。

### < 参考・引用文献 >

- 「平成 18 年度 学校要覧」 (ペナン日本人学校)
- 「平成 19 年度派遣教員赴任の手引き」 (ペナン日本人学校)

### < 参考にさせていただいたHP >

- ペナン日本人学校ホームページ (<http://www.mypjs.com>)
- 在マレーシア日本国大使館ホームページ
- 在ペナン日本国総領事館ホームページ